

Q23

ジュゴンの餌場、生活の場である辺野古・大浦湾海域に新基地建設工事はどのような影響を与えていますか。

A

沖縄は世界のジュゴンの北限の生息地であり、その中でも辺野古・大浦湾は、ジュゴンの餌場である海草藻場が沖縄島周辺で最大の規模で広がる、ジュゴンの生存にとって非常に大切な場所です。

辺野古・大浦湾の周辺海域では、3頭のジュゴンが確認されていました。しかし、埋立工事のために政府が大型コンクリートブロック等の投入を開始した平成27年1月以降、それまで確認されていたジュゴンが確認されなくなりました。そして、平成31年3月には、3頭のうち1頭の死がいが見つかりました。

こうした状況から、国際自然保護連合(IUCN)が令和元年12月10日にレッドリストを更新し、沖縄・南西諸島のジュゴンについて、沖縄の個体群が他の生息地と離れていることを理由に個別に評価し、最も危険度が高い「絶滅寸前」に引き上げました。IUCNは、辺野古新基地建設が脅威になっていると指摘しています。

サンゴについても、政府は、工事着手後の平成30年8月に、絶滅危惧種のオキナワハマサンゴ9群体を移植しました。しかし、そのうち3群体が死亡、1群体が消失したと報告しています(令和2年11月現在)。

政府がフロートやブイを固定するためなどに設置したコンクリートブロックが、台風による波浪の影響で移動し、湾内のサンゴ等を傷つけていることも確認されています。

県はこれまで、工事の中止等を求める行政指導文書を発出していますが、政府は工事を強行しており、大規模な地盤改良工事に伴って発生する汚濁の拡散等によるジュゴンやウミガメ、魚類、サンゴ類、海藻草類等の海域生物への影響も懸念されます。



辺野古・大浦湾周辺で確認されたジュゴン(平成10年・1998年)